

## 第51回北海道性教育研究大会(函館・渡島大会) 兼 全性連北海道ブロック大会を終えて

北海道性教育研究会  
会長 佐野 友美

今年度は11月17日(金)に、自然豊かで異国情緒あふれる函館市において標記の大会を開催いたしました。道内各地から会場にお集まりいただき、また、オンラインを通して画面越しにも多くの皆様に御参会いただきましたこと、そして、北海道教育庁、函館市教育委員会、全国性教育研究団体連絡協議会より、多くの御来賓の皆様にご臨席いただきましたことを心よりお礼申し上げます。

今大会では、大会主題を『豊かな人間性を支える性に関する指導』とし、副主題を「小・中学校における性教育の進め方」と掲げ、小学校・中学校における実践発表とその研究討議を行い、後半は函館・性と薬物を考える会の会長でおられる湯の川女性クリニック院長 小葉松 洋子 様を講師にお迎えして講演会を実施いたしました。

函館市立えさん小学校 榊原 木の実 先生の実践発表では、養護教諭の立場から、汎用性のある授業案を作成し、担任教諭との関わりを密にしながら全校へ指導の輪を広げられており、3年間にわたり地道に実践を積み重ねられた貴重な事例の発表でした。函館市立赤川中学校 弓庭 美帆 先生の実践発表では、小学校勤務経験を生かした視点から、中学校における性教育を保健体育科だけに留めるのではなく、他教科での学習内容を把握し、配列し、価値付けすることによって、学校全体でより多角的で効果的な指導がなされるように工夫された事例の発表でした。



小葉松様の御講演では、性加害・性虐待に関わる報道を取り上げ、そこからの問題提起や思春期の心と体の発達に関わる事例の紹介、様々な書籍を御紹介くださる中から、学校における性教育と学校と専門家が連携した性教育の在り方について多くの御示唆をいただきました。顔を合わせ、笑顔で対話することで、心温まる思いを感じる大会となりました。



本研究会においては「学校教育における性教育」「小・中・高の一貫した性教育」「豊かな人間性」「生きる力」などをキーワードに、実践的な研究活動を続けてまいりました。現在も、子どもと若者の性に関する様々な社会問題が山積しておりますが、子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくりを目指さなければならないと考えております。

そのためには、性教育の意義をしっかりと認識し、生命尊重や自己肯定感、他者との望ましい人間関係づくりを身に付けさせることが重要であり、子どもの発達段階に配慮しつつ、学校教育全体を通して、意図的・計画的に指導・実践することが大切であると考えます。これからも全道の皆様と共に研鑽を積んでまいりたいと思います。今後もお力添えの程、どうぞよろしくお願いいたします。